

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成30年1月12日

【四半期会計期間】 第52期第3四半期(自平成29年9月1日至平成29年11月30日)

【会社名】 エスフーズ株式会社

【英訳名】 S Foods Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 村上真之助

【本店の所在の場所】 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13

【電話番号】 (0798)43局1065番

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長
安岡信幸

【最寄りの連絡場所】 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13

【電話番号】 (0798)43局1065番

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長
安岡信幸

【縦覧に供する場所】 エスフーズ株式会社東京支店
(千葉県船橋市浜町3丁目2番3)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第51期 第3四半期 連結累計期間	第52期 第3四半期 連結累計期間	第51期
会計期間		自 平成28年3月1日 至 平成28年11月30日	自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日	自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日
売上高	(百万円)	207,270	233,633	281,233
経常利益	(百万円)	7,889	8,697	10,843
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	4,555	5,862	6,499
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	6,778	16,228	10,482
純資産額	(百万円)	60,621	88,695	64,524
総資産額	(百万円)	130,720	162,872	134,271
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	162.68	192.18	232.09
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	144.11	-	205.61
自己資本比率	(%)	42.4	51.0	44.1

回次		第51期 第3四半期 連結会計期間	第52期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成28年9月1日 至 平成28年11月30日	自 平成29年9月1日 至 平成29年11月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	65.85	59.10

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 3. 第52期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、底堅い内外需に支えられ企業業績は堅調に推移しておりますが、個人消費は賃金の伸び悩みもあり、やや緩やかな回復に留まっている状況です。食肉業界におきましては、円安の長期化や気候変動による原料価格の値上がり等から消費意欲の減退に悩まされました。

このような経営環境のもと、当社グループは、食肉事業の上流から下流までを一貫してグループ内で完結する垂直統合を推し進めることにより、安定した事業経営と安心で安全な食肉製品供給の強化を目指しました。

食肉等の製造・卸売事業においては、北海道における日高食肉センターや米国のAURORA PACKING COMPANYなどの食肉生産拠点の経営安定化に注力し、ブランド豚「ゆめの大地」や米国産高級品種アンガスビーフに特化した「AURORA ANGUS BEEF」などの販売を強化しました。また、昨年より鶏肉事業にも本格参入し、基盤拡大を図るための積極的な営業活動を行っております。食肉加工品においては、鍋物シーズンの定番アイテム「こてっちゃん牛もつ鍋」シリーズのシェアアップに努めました。

食肉等の小売事業においては、イベント型の提案販売や、レイアウト再構築等の既存店活性化を継続実施した他、生産性向上のために作業工程の見直し、適正な人員配置のためのシフトコントロールを強化しました。また既存店の改装や不採算店の閉鎖、新規ディベロッパーとの取組による新店開発や、新業態での新規出店等、各種施策を推進しました。

食肉等の外食事業においては、ステーキレストランチェーン事業及び焼肉・しゃぶしゃぶチェーン事業において、メニューの考案や不採算店対策等、競争力向上のための施策を実施しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,336億3千3百万円（前年同四半期比12.7%増）、営業利益83億4百万円（前年同四半期比10.0%増）、経常利益86億9千7百万円（前年同四半期比10.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益58億6千2百万円（前年同四半期比28.7%増）となりました。

続いて、セグメントごとの業績は次のとおりであります。なお、売上高は外部顧客への売上高を記載し、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

食肉等の製造・卸売事業

売上高は2,100億8千7百万円（前年同四半期比14.4%増）、セグメント利益は78億6千6百万円（前年同四半期比13.8%増）となりました。

食肉等の小売事業

売上高は169億2千3百万円（前年同四半期比0.1%増）、セグメント利益は8億3千万円（前年同四半期比17.3%減）となりました。

食肉等の外食事業

売上高は56億4千9百万円（前年同四半期比0.9%減）、セグメント利益は3億5千9百万円（前年同四半期比6.4%減）となりました。

その他

売上高は9億7千2百万円（前年同四半期比0.5%増）、セグメント利益は9千6百万円（前年同四半期比4.0%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて286億円増加し、1,628億7千2百万円となりました。これは主に、売上高増加に伴う売上債権、たな卸資産の増加、土地の増加及び投資有価証券の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて44億3千万円増加し、741億7千7百万円となりました。これは主に、売上高増加に伴う仕入債務の増加、借入金の増加及び新株予約権付社債の転換による社債の減少によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて241億7千万円増加し、886億9千5百万円となりました。これは主に、新株予約権付社債の転換による資本剰余金の増加、利益剰余金の増加、自己株式の減少及びその他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の当社グループが支出した研究開発費の総額は1億5千1百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年1月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	32,267,721	32,267,721	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	32,267,721	32,267,721	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年11月30日	-	32,267,721	-	4,298	-	11,881

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 602,500	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 31,649,800	316,498	-
単元未満株式	普通株式 15,421	-	-
発行済株式総数	32,267,721	-	-
総株主の議決権	-	316,498	-

（注）「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が220株含まれております。

【自己株式等】

平成29年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
（自己保有株式） エスフーズ株式会社	兵庫県西宮市鳴尾浜 1丁目22番13	602,500	-	602,500	1.87
計		602,500	-	602,500	1.87

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年9月1日から平成29年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年3月1日から平成29年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	36,445	30,495
受取手形及び売掛金	27,238	34,429
商品及び製品	13,644	19,630
仕掛品	896	996
原材料及び貯蔵品	2,544	3,510
その他	3,157	3,803
貸倒引当金	157	178
流動資産合計	83,769	92,686
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	34,699	36,175
減価償却累計額	21,224	22,236
建物及び構築物(純額)	13,474	13,939
土地	11,067	14,135
その他	26,118	28,157
減価償却累計額	18,120	19,540
その他(純額)	7,997	8,617
減損損失累計額	1,459	1,586
有形固定資産合計	31,080	35,105
無形固定資産		
のれん	5	185
その他	406	396
無形固定資産合計	412	582
投資その他の資産		
投資有価証券	16,432	30,956
退職給付に係る資産	315	312
その他	2,461	3,427
貸倒引当金	201	198
投資その他の資産合計	19,009	34,497
固定資産合計	50,501	70,185
資産合計	134,271	162,872

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,947	28,124
短期借入金	5,281	6,074
未払法人税等	2,040	866
賞与引当金	884	1,423
その他	8,301	8,866
流動負債合計	38,455	45,354
固定負債		
社債	8,814	850
長期借入金	15,172	16,396
役員退職慰労引当金	315	329
退職給付に係る負債	2,021	2,099
その他	4,966	9,146
固定負債合計	31,290	28,822
負債合計	69,746	74,177
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,298	4,298
資本剰余金	12,120	18,715
利益剰余金	37,935	42,690
自己株式	2,936	423
株主資本合計	51,417	65,280
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,170	17,278
繰延ヘッジ損益	20	5
為替換算調整勘定	613	460
退職給付に係る調整累計額	66	26
その他の包括利益累計額合計	7,736	17,718
非支配株主持分	5,369	5,696
純資産合計	64,524	88,695
負債純資産合計	134,271	162,872

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	207,270	233,633
売上原価	176,140	199,139
売上総利益	31,129	34,494
販売費及び一般管理費	23,577	26,189
営業利益	7,552	8,304
営業外収益		
受取利息	27	33
受取家賃	99	98
受取配当金	154	243
その他	358	290
営業外収益合計	639	666
営業外費用		
支払利息	147	148
為替差損	44	9
賃貸原価	47	45
その他	62	70
営業外費用合計	302	273
経常利益	7,889	8,697
特別利益		
固定資産売却益	1	3
投資有価証券売却益	158	153
負ののれん発生益	-	30
その他	26	-
特別利益合計	186	187
特別損失		
固定資産処分損	77	88
減損損失	172	163
店舗閉鎖損失	4	0
その他	0	-
特別損失合計	255	252
税金等調整前四半期純利益	7,820	8,632
法人税等	2,817	2,413
四半期純利益	5,002	6,218
非支配株主に帰属する四半期純利益	447	356
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,555	5,862

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益	5,002	6,218
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,340	10,127
繰延ヘッジ損益	22	14
為替換算調整勘定	603	154
退職給付に係る調整額	26	49
持分法適用会社に対する持分相当額	10	2
その他の包括利益合計	1,775	10,009
四半期包括利益	6,778	16,228
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,307	15,843
非支配株主に係る四半期包括利益	470	384

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日)	
税金費用の計算	当社及び一部の連結子会社については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日)	
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社等の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証(連帯保証)を行っております。

前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
株式会社カーサ	210百万円 株式会社カーサ
有限会社すぎもとファーム	66百万円 有限会社すぎもとファーム
株式会社遠野牧場	583百万円 株式会社遠野牧場
マスターファーム株式会社	74百万円 マスターファーム株式会社
株式会社日高はなはなファーム	506百万円 株式会社日高はなはなファーム
株式会社豊頃中央農場	630百万円 株式会社豊頃中央農場
株式会社十勝中央農場	730百万円 株式会社十勝中央農場
S FOODS SINGAPORE PTE.LTD.	184百万円 S FOODS SINGAPORE PTE.LTD.
WANG FOONG FOODSTUFFS SUPPLIERS PTE LTD	368百万円 WANG FOONG FOODSTUFFS SUPPLIERS PTE LTD
金丸 一男他2社	164百万円 金丸 一男他2社
計	3,517百万円 計 3,439百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日)
減価償却費	2,203百万円	2,368百万円
のれん償却額	6百万円	33百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年11月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月24日 定時株主総会	普通株式	448	16.00	平成28年2月29日	平成28年5月25日	利益剰余金
平成28年10月12日 取締役会	普通株式	476	17.00	平成28年8月31日	平成28年10月31日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月23日 定時株主総会	普通株式	505	18.00	平成29年2月28日	平成29年5月24日	利益剰余金
平成29年10月12日 取締役会	普通株式	601	19.00	平成29年8月31日	平成29年10月31日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、平成29年7月13日付の取締役会において、当社従業員に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式の処分を行うことを決議し、72,300株を処分しました。この結果、資本剰余金が244百万円増加し、自己株式が50百万円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間において、平成32年満期の第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の転換に伴い、資本剰余金が6,349百万円増加し、自己株式が2,463百万円減少しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の残高は、資本剰余金が18,715百万円、自己株式が423百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	食肉等の製造 ・卸売事業	食肉等の小売 事業	食肉等の外食 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	183,701	16,900	5,700	206,302	967	207,270	-	207,270
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,206	39	239	6,486	112	6,598	6,598	-
計	189,908	16,939	5,940	212,788	1,080	213,868	6,598	207,270
セグメント利益	6,914	1,004	384	8,303	92	8,396	844	7,552

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲料水製造・販売事業及び不動産事業等であります。

2. セグメント利益の調整額 844百万円には、セグメント間取引消去 26百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 817百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社及び一部子会社の間接部門の一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	食肉等の製造 ・卸売事業	食肉等の小売 事業	食肉等の外食 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	210,087	16,923	5,649	232,661	972	233,633	-	233,633
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,370	38	306	6,715	121	6,836	6,836	-
計	216,458	16,961	5,956	239,376	1,094	240,470	6,836	233,633
セグメント利益	7,866	830	359	9,057	96	9,154	849	8,304

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲料水製造・販売事業及び冷蔵倉庫業等であります。

2. セグメント利益の調整額 849百万円には、セグメント間取引消去 27百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 821百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社及び一部子会社の間接部門の一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な該当事項はありません。

(企業結合等関係)

重要な該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	162.68円	192.18円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	4,555	5,862
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	4,555	5,862
普通株式の期中平均株式数(株)	28,001,861	30,504,687
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	144.11円	-円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	2	-
(うち支払利息(税額相当額控除後)(百万円))	(2)	-
普通株式増加数(株)	3,591,380	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注)当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第52期（平成29年3月1日から平成30年2月28日まで）中間配当については、平成29年10月12日開催の取締役会において、平成29年8月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	601百万円
1株当たりの金額	19円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成29年10月31日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年1月11日

エスフーズ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 浅井 愁 星 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 溝 静 太 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエスフーズ株式会社の平成29年3月1日から平成30年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年9月1日から平成29年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年3月1日から平成29年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エスフーズ株式会社及び連結子会社の平成29年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。